

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信



発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム 2014年 5月号 VOL.38

文責：伊藤 浩明・櫻井 由美子 編集：櫻田 亜矢子

＜岐阜東部地域緩和ケア研究会を開催しました＞

緩和ケアチームの伊藤浩明です。5月17日に岐阜東部地域緩和ケア研究会を当院で行いましたので、そのご報告をさせていただきます。この研究会は、岐阜東部地域にある病院の緩和ケアチームや緩和ケアに関わるスタッフが年に2回集まり、その時々で課題を話し合うものです。今回は、「在宅移行におけるPCTの現状と課題」と題して、入院患者を在宅移行する際にPCTがどのように関われるか、各病院での問題点や課題を話し合いました。参加人数は19人で、それぞれの施設で発表をしたことをもとに、全員で話をいたしました。

一番の問題は人員不足です。緩和ケアに関わるスタッフが少ないことと緩和ケアチームの活動時間が足りないことは共通の問題点でした。

今後のアクションとして、①病棟スタッフと主治医の思いを聞いて、お互いが情報共有できるように間に立つ、②患者家族の思いを聞いて、医療者につなぎ折り合いをつける一助をする、③緩和ケアに関する、また在宅療養の体制についての情報提供を進める、④在宅だけではない療養の場を提案し調整する、などのことがPCTのスタッフとして地道に行えることではないかとの結論に至りました。

緩和ケアチームの活動は、当地域ではなかなか大きなものにはなりませんが、少しでも医療者の悩みを軽減し、患者家族の思いをくみ取れる手助けができるよう、着実に前に進んでいけると良いと願っております。

「こういう話をいつ切り出したらいいのかって思っていました、ありがとう。」

進行再発癌で外来化学療法を受けていらっしやった患者さんの言葉です。抗がん剤の変更を繰り返し元気がない様子でした。気がかりについて尋ね、具体的な療養の場の希望をお聞きした場面での言葉です。がんと診断された時からの緩和ケアは、患者さんの価値観を尊重し、希望に合わせた治療・ケア、療養ができるように他職種でサポートする必要があります。患者さんは治療に対する思い、家族に対する思い、仕事に対する思いなど様々な思いを抱えて治療を受けてみえます。治療に対する期待などから今後の療養の場まで考えられない状況の患者さんもいます。意思決定支援のプロセスの中で、患者さんが大切にしている事や信念・価値感を尊重できるケアを行っていきたいと思っています。



がん化学療法看護認定看護師 櫻井 由美子



平成26年度 第2回緩和ケア講演会を行いました。

平成26年5月8日に第2回緩和ケア講演会を行いました。

今回は岐北厚生病院の乳がん看護認定看護師、小池恵理子先生に、乳腺センターでの乳がん治療の取り組みやケアについてお話をいただきました。「患者が社会復帰できてこそ、その人らしく生きることができる」というお話に感銘を受けました。



第3回 緩和ケア講演会

6月の講演会予定

日時：平成26年6月12日 18時～19時半

場所：中央診療本館3階講堂

内容：『在宅緩和ケアにおける専門在宅医の役割』

講師：河上クリニック 鷺津 潤爾先生

ご参加お待ちしております☆

